
遠い記憶

槇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遠い記憶

【Nコード】
N5005E

【作者名】
槇

【あらすじ】
とある魔術の禁書目録の魔術師、神裂火織の過去話です♪

「どうしたんだい？ 神裂」

「いえ、少し昔のことを思い出しただけです」

ここはイギリスにあるとある協会

神裂は聖堂の中で1人思い出していた

それは優しすぎる神裂に対してあまりにも辛い過去

「貴女は女教皇になるべき人なのよな」

神裂はまだ小さいころ、それを彼に聞いた

建宮齋字

後に教皇代理になる男である

彼だけではない

たくさんの方天草式の人にそう言われた

戦いに挑む

まだ幼い神裂でさえ戦いに出なければいけなかった

理由は『聖人』だから

たった一言の理由で神裂は戦場に赴くこととなる

刀を振るう

沢山の魔術師を手につつ刀で薙払う

不意に

「ッ！」

敵の魔術による攻撃

火の魔術が刀を振るい無防備な神裂を襲う

「女教皇！」

気がついたときには

天草式と同じ仲間の数人が

「どう……して………」

神裂を守る盾として立ちふさがっていた

「ああ、貴女がご無事で何よりでした」

「どう、して……ですか？」

「貴女は……天草式に……必要なお方です
……だから」

神裂の瞳から涙が零れる

「泣かないで下さい」

はつきりと、芯のこもった声で

そして自分の手で神裂の頭を撫で、あやすように

そして

神裂の頭に乗せた手から力が抜け、数人の人は崩れ落ちた

「う、うわああああ!!」

全部、私のせいだ

目の前の人が自分の為に死んだことも、自分の弱さでその人が死んだことも

自分が『幸運』だから

どれだけ努力をしても、どれだけ夢を見ても才能には叶わなかった人を大勢見てきた

だから神裂は強くなることを決めた

神様は選ばれた者しか救わない

それならば

選ばれなかった人達を1人残らず自分が救う

そう、決めた

そして――

「建宮、留守は任せました」

「貴女が帰ってきてても恥ずかしくないような、そんな場所にするつもりなのよな」

神裂は薄く微笑み、

「失礼します」、とだけ言い、その場を去った

行き先はイギリス

この力を人を助ける為に使える場所があると聞いたから

「もっと、強くならないといけませんね」

神裂は拳を握りしめる

その胸の内に刻んだ覚悟は

Salvare000

救われぬ者に救いの手を

「私の選択は正しかったのでしょうか？」

「君が正しかった、と思うならその道は正しい筈だよ」

「そう、ですね」

「そうそう、神裂

最大主教が呼んでいたよ」

「分かりました」

神裂は聖堂の扉を開く

そして、呟く

「私の力は本当に人を救えるのでしょうか」

ガタン、と聖堂の扉が閉められステイルはその問いに答えるように呟いた

「当たり前じゃないか」と

e
n
d

（後書き）

初めまして、槇と申します！

この小説は16巻の少し前くらいのイメージです

はい、捏造ばっかですみません（汗

で、でも神裂さんのマジメ話を書きたかったんです！

こんな駄文でしたが読破感謝です♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5005e/>

遠い記憶

2011年1月2日14時03分発行